

「生ごみのリサイクル」でごみの減量と趣味の充実を!



生ごみで生まれた堆肥は、家庭菜園で活用できます。

家庭から出る可燃ごみのおよそ半分は生ごみです。区では平成13年度よりごみの減量につながる取り組みとして、リサイクル実践モニター制度を開始。それぞれの家庭にあった手法で生ごみのリサイクルを実践する人の育成を行ってきました。現在では、活動の舞台を「えどがわエコセンター」に移し、「生ごみリサイクル講習会」として引き継がれています。

生ごみのリサイクルは、ごみを減量することはもちろんですが、できた堆肥を自宅や公園の花壇作りに生かすことができます。まさに、趣味と実益を兼ね備えた活動であり、実践する人の輪が広がっています。



生ごみのリサイクルを広めるため 生ごみ堆肥化実践クラブが活躍中!

生ごみ堆肥化実践クラブは、区で実施したリサイクル実践モニターを修了した有志で創設した生ごみリサイクルの自主グループです。現在、約50名の会員が生ごみ堆肥化の普及活動を行っています。

講習会や出前講座では、会員が講師を勤めます。



私どもの活動が、区の進めるごみ減量とリサイクルの推進に少しでも役立てばと思います。

たかが「ごみ」されど「ごみ」ではないですが、その意味で、私たちの活動は大変意義のあることと自負しております。



生ごみ堆肥化実践クラブ代表 佐藤正兵さん

集団回収団体紹介コーナー

がんばっています集団回収!

篠崎七丁目町会のみなさん



ボクも集団回収を応援します!



篠崎七丁目町会は都営新宿線の篠崎駅に近いということもあり、新しい住民が比較的多い地域ですが、月に一回行われている集団回収では、町会を中心に、子ども会、PTAそして、くすのきクラブの4団体が一丸となった取り組みが行われています。すっかり地域のイベントとして定着し、新旧住民の交流の場、地域のコミュニケーションの場になっています。

地域のまとまりで、回収量も多く、活気があります

取材者の目

会員の善意で出している7、8台のトラックで町会の集積所から、新聞・雑誌・段ボールを回収していく。そして、中継所となる篠崎四小の校庭では20人以上の町会の人たちが待ち構え、品目ごとに荷物を載せ換える。手馴れた作業の中、掛け声と、笑い声が寒空にこだまする。本当に、みんな楽しんでいる。資源を少しでも高値で引き取ってもらうため、直接、古紙問屋に持ち込んでいるとのこと。これも地域の結束力があればこそそのもの。もはや、篠崎七丁目町会の集団回収は、しっかり地域に根付いているようだ。

資源のリサイクルは地域全体の協力で

集団回収によって、町会のまとまりができますね。

新しく引越されてきた方も、集団回収を通して地域にとけ込んで活動しています。

汗をかいた後は婦人部の作ってくれる“カレーライス”をみんなで食べるのがこの町会の慣わしなんです。



町会長 伊藤国雄さん

なぜ?

区では生ごみ処理機の購入補助がないの?

家庭用生ごみ処理機の購入に対して補助金を支給している自治体もありますが、江戸川区ではそうした制度を設けていません。

農林水産省で設置した研究会のアンケート調査では、生ごみ処理機を購入した人のおよそ4割の人が、予備知識のないことが原因で、途中で使用を止めてしまうという結果がでています。

このことから、区では補助金が有効に生かされない制度ではなく、生ごみのリサイクルに取り組むための知識や取り組み方を普及させることに重点をおき、講習会や出前講座の開催、イベントでのPRの実施により、確実に取り組む人の輪を広げています。

ごみ減量・リサイクル出前講座

ごみ減量やリサイクルに関する学習会のお手伝いをいたします。区の職員がお伺いして出前講座を行います。ご希望の方は、町会・自治会・各種グループ単位でお申込みください。

講座のテーマ

- ◆誰でもできる生ごみリサイクル!
- ◆ごみ減量とリサイクル
- ◆集団回収をはじめませんか?
- ◆3Rの取り組み方

など

生ごみリサイクル講習会

えどがわエコセンター事業として毎年春と秋に実施しています。詳細は広報えどがわ等でお知らせします。

春の講習会スケジュール

	場 所	開催日
木曜日コース	鹿骨区民館	5月11日~
土曜日コース	タワーホール船堀	5月6日~

※各コースとも3回コース ※実費負担あり

ごみ情報伝言板

